

幼 兒 の 教 育

昭 和 十 一 年 二 月

二 月

寒い空が雪となつた。埋めて白く、まごを道まもわかち難い。校門から園舎まで、踏み分けてゆく遠野の朝を、難儀がるのはおまな達である。嬉々としてよろこび走つてゆくのはまごも達である。

まごには何んでもが楽しくないものはない。何ものにも、新らしい興味、勇ましい氣力を喚び起さずにはゐない。何まごに對しても、苦にしたり、しりごみしたりしない。

おまなが、寒さにふるへて冬籠る此の二月こそ、まごもまおまなまごの違ひを、しみぐみ思はせる月である。それにしても、まごものお蔭でこそ、二月も雪も、さえぐみよるこんでゐるまごであらう。若し世の中がおまなばかりだつたら、二月も雪も、これはたまらぬさいちけふるへて仕舞ふまごであらう。